

武庫川女子大学 武庫川女子大学短期大学部

第11号

FDニュース



● 目 次 ●

〔1〕 本年度の活動方針

〔2〕 FD 推進委員会の活動報告

- ・ 授業改革ワーキンググループ
- ・ 情報収集・広報ワーキンググループ
- ・ FD 研修ワーキンググループ

〔3〕 シリーズ授業

〔4〕 編集後記

特集：大学院 FD の取り組み

本年度の活動方針

FD 推進委員長 北村 薫子

学生が主体的・自律的に学ぶ意欲を引き出す授業を増やすこと、これが本年度のFD推進委員会の目標です。学生が自分から学び始めるために、私ども教員が授業の中でいかに工夫し、きっかけを提供することができるか、まさに教育の本質でもあります。

本学には多くの学部・学科があり、多様な授業形態のもと、多数の学生が受講します。学生が主体的に学ぶには、それぞれの授業で学生への働きかけが異なります。その授業における効果的な方法は、毎週学生と接している先生方が最もよく把握されていると思います。ただ、授業、研究、担任、各種会議など様々な業務を同時にいくつもこなす中、教員個々で授業のための研鑽の時間を確保するのはむずかしい状況にあります。さらに、中央教育審議会が出した「学生の主体的な学び」の提案から、アクティブラーニング、ディープラーニング、PBLなど新しい手法が紹介され、双方向型、課題解決型の授業を展開することがあらたに求められています。時代に応じた望ましい方法であっても、先生方には「わかっているけど、そんな時間ない」という状況が度々生じていることと拝察しています。

そこで、FD推進委員会は、体系的に学内外のFDに関する情報収集を行い、その情報を各教員が使えるかたちで学内に伝えることが重要な役目であると考えています。関西地区をはじめ各地のFD連絡協議会での情報収集、研修会への参加、このFDニュースやMUSESでの広報をはじめ、参加型研修会の実施、授業公開の実施など、内容に合った手段を用いながら、授業の工夫を相互に共有すること、さらに学外の新しい試みを取り入れることなど、教員個々では取り組みにくいことを委員会として集約し、使いたいときに誰もが使えるようにしたいと考えています。

本年度のFD推進委員会のキーワードの一つは「実効性」です。会議時間は1時間。机の配置は自由、着席も自由、発言はいつでもOK、グループディスカッションあり、グループを飛び越えたディスカッションあり、ホワイトボードを使ってプレゼンしてもよし。議論を持ち越さず、その場で結論まで行き着くことが毎回の目標です。そして、決定された事項の実施にあたっては、下表のワーキンググループ(WG)が主体となり実施します。

本学の教育推進宣言では、学生の“主体性・論理性・実行力”を培う教育の促進が謳われています。FD推進委員会は、まず、「学生の主体性を強化すること」を中心に据えて活動して参ります。ご興味やご意見がありましたら、ぜひお知らせくださいましたら幸いです。本年度もFD推進委員会へのご協力を宜しくお願い申し上げます。



平成26年度 FD 推進委員会 構成

ワーキンググループ	目的	活動内容
授業改革 ワーキンググループ	学生の主体的・自律的な学びを引き出す授業の実施のための検討を行い、授業改善・改革につなげる。	・ 授業アンケート改訂案の素案作成。 ・ 実効性のある授業公開の検討 ・ その他
情報収集・広報 ワーキンググループ	FD推進委員会の活動および、FDに関する国内外の情報や他大学の取り組み事例を収集し、学内教職員に案内する。	・ 『FDニュース』の発行 ・ 情報収集と学内教職員への広報 ・ その他
FD 研修 ワーキンググループ	教職員のFD研修の企画と実施を行う。	・ FD研修の企画と実施 ・ 就任1年目研修の内容・時期の計画および実施。 ・ その他

FD 推進委員会の活動報告

〔授業改革ワーキンググループ〕

平成26年度FD推進委員会の「授業改革ワーキンググループ」では、前期に1. 授業アンケートの検討、2. 前期授業公開の実施、3. 授業公開推奨科目の選定の活動を行いました。

1. 授業アンケートの検討では、①アンケートの目的を授業改善だけではなく、組織的なFDとして活用する方向で検討を進める。②授業アンケートの回答率の向上については、スマートフォンの所有率を勘案すれば授業時にスマートフォンを利用して回答を促すことが望ましい。③授業アンケートの実施形態は、中間時期に授業改善ミニアンケートを実施（通常の授業時にミニツッパーパー等を実施している教員は不要）し、個々の授業改善に活かす。そして、MUSESシステムによる授業アンケートは最終授業間際で実施する。なお、後期の授業アンケートの実施時期は中間時期（授業改善ミニアンケート）が平成26年10月27日(月)～11月7日(金)(予定)、MUSESシステムでの回答は平成26年12月15日(月)～平成27年1月10日(土)(予定)。さらに、授業アンケートの設問内容については学生の負担を考慮して、FDとの観点で必要と思われる項目に絞り込む作業を行っています。

2. 前期授業公開は、平成26年6月16日(月)～7月21日(月)に実施しました。

3. 授業公開推奨科目の選定では、授業改革ワーキンググループのメンバーによってアクティブラーニングなど特色のある授業を展開している教員が推薦されました。

以上のように少しずつではありますが、授業改革ワーキンググループでは“教育推進宣言”に掲げた「主体性・論理性・実行力を培う女子教育」の推進のための作業を進めています。教職員の皆様におかれましては、今後も授業改善に対するご意見がありましたら遠慮なくお申し出頂ければ幸いです。

FD 推進委員会が推奨する授業公開科目一覧

(平成26年6月16日現在)

科目名	授業形態	開講クラス	担当者名	曜時	受講者	教室	授業の特徴
1 グローバル化と日本A	演習	大英3S	N.J. ルドルフ	水 2	23名	E-503	学生に事前に課題（リーディング）を与え、授業においてはグループ学習を取り入れている。全て英語で実施。
2 ドイツ文学と文化A	講義	大英3ABCDE 大英4ABCDE	野口 芳子	火 4	93名	C-705	テキストの読む範囲を指定し、その内容について担当者が質問し、学生が答える双方向の授業を、講義形式の授業で展開している。
3 ソーシャルワーク概論A	講義	大心1CD	半羽利美佳	木 4	86名	E-202	ソーシャルワーク実践の基礎基盤となる価値や倫理について、ディスカッションや視聴覚教材等を活用しながら理解を深めている。
4 精神保健福祉援助技術各論	講義	大心3D	大岡 由佳	木 4	22名	L1-307	心に病をもった人々をいかに援助するかについて、学生と教員の双方向性の対話を重視しつつ、知識・技術を獲得する授業。
5 バイオメカニクス	講義	短健2AB	新井 彩	火 1	32名	MM-701	バイオメカニクスの基礎理論を、自分の身体を使って実践をしながら理解を進めていく授業展開を実施している。
6 国際ビジネス論	講義	大情2ABCD	井上 重信	金 4	86名	MM-814	実務の事例を通してグローバルビジネスの理解を深められる。

(FD 推進委員 授業改革ワーキンググループ 渡邊完児)

〔情報収集・広報ワーキンググループ〕

「情報収集・広報ワーキンググループ」では、FD推進委員会の活動およびFDに関する国内外の情報や他大学の取り組み事例などの情報を収集し、学内教職員に案内することを目的としています。

FD推進に関する情報の、何がどこにあるのかがわかりやすく、しかも効果的に広報するために、現在、下記のような取り組みをすすめています。

【取り組み】

・FD ニュース：年2回発行（本紙第11号発行。次号は2015年3月を予定）

・ホームページ：内容更新

次年度以降のリニューアルについて検討

※学外セミナー・研究会の開催情報：info@MUSESにて教育開発支援室より随時案内



現在のホームページ

紙媒体によるFDニュースは教職員の手に直接届くため、比較的目に留まりやすいのですが、その一方でFD推進委員会のホームページの存在についてはまだ十分に認識されず、やや埋もれてしまっている感があります。上半期は、現在のホームページについてさらに精査し、まずはできるところから変更しています。

FD推進の取組みが一人でも多くの教職員の目に留まるよう、今後は構成を工夫し、知りたい情報や授業改善に役立つコンテンツなど、ニーズに即した情報へ簡便にアクセスできるしきみを、さらに整えていけたらと思います。

広報に関するご意見やご要望があれば、ぜひお聞かせください。

(FD 推進委員 情報収集・広報ワーキンググループ 松本佳久子)

〔FD 研修ワーキンググループ〕

FD 研修ワーキンググループでは、下記のように新任教員 FD 討論会を開催しました。昨年度まで就任1年目教員研修会として年度末近くに行われておりましたものを、本年度は名称や内容を刷新して行いました。

日時：平成26年7月26日(土) 13:30~17:00

場所：附属図書館 ラーニングcommons C-604

内容：「自立した学習のための授業の工夫」についての討論

詳細：13:30~13:40 FD 推進委員長 北村薫子先生による開会挨拶、および出席者紹介

13:40~14:50 教育研究所副所長 田中每実先生からの話題提供

15:00~15:10 学長 糸魚川直祐先生のお話

15:10~16:55 ワールドカフェ形式によるグループ討論

参加者：新任教員20名とFD 推進委員12名(教員8名、事務職員4名)

田中每実先生の話提供では、本学の教育推進宣言にある自立した学生を社会に送り出すためにどのような教育が望ましいかお話し頂きました。出席者には平成24年度「学生の自立を促す教育」のための勉強会報告書と平成21年度 私語に関する学生アンケート調査報告書も配付され、特に前者は大学・短大、学科ごとの違い、高校生までに培われた勉学習慣と将来展望との関連など大切な知見が多く含まれることが示されました。また、本学でご担当された授業の学生コメントや授業公開の教員コメントを例示され、具体的に話題提供して頂きました。いわゆるアクティブ・ラーニングを実践しても学生の議論は浅くなりがちで、ディープ・ラーニングを伴う必要があること、そのバランスは学科によっても異なるが本学では特に大事だろうということです。また、若手教員は学生との歳が近いというテクニックに頼って授業をしないという直截性が、学生の授業アンケート結果でも評価が高くなる要因の一つで、それは若手だけが持つ強みとして活かしてほしいことも語られました。

休憩を挟んだ後、糸魚川学長から、学生が考えたことを発表する訓練をさせてほしいが学生に考えさせるためにはまず教師が考えている姿勢を見せることが重要であること、考えるための基礎となる知識や技術はしっかりと教えてほしいことなどお話し頂きました。

引き続き、それらのお話を題材としてワールドカフェ形式(詳細はFD ニュース第10号、2014年3月発行)によるグループ討論が行われました。5つのテーブルに分かれ、各テーブルで新任教員1名の方に「ホスト」になって頂き、その他の出席者は「旅人」として、15分間の議論を計3テーブルで行い、最後に初めのテーブルに戻って総括をし、ホストの先生が前に出て、テーブルごとに議論の行方を記した大きなホワイトボードを使って話題や議論の行方を発表して頂きました。新任の先生方から本学の学生と前任校の学生の違い、工夫点、悩みなどが出され、それについての解決策について討論し、常に「やる気の種」になりそうなきっかけを蒔き続けることが教員の役割であること、板書とPPの活用法、課外活動の意義や進め方などが議論されました。

(FD 推進委員 FD 研修ワーキンググループ 古濱裕樹)



平成26年度 FD 推進委員会メンバー一覧

	役 職	所 属	氏 名		役 職	所 属	氏 名
1	委員長	環境	北村 薫子	11	委員	建築	田崎 祐生
2	副委員長	英文	三浦 秀松	12	委員	音楽	松本佳久子
3	委員	日文	塩出 雅	13	委員	薬学	西川 淳一
4	委員	英文	野口 芳子	14	委員	共通	木村麻衣子
5	委員	教育	藤井 達矢	15	委員	教務部	齊藤 文夫
6	委員	心福	大西 次郎	16	委員	教務部	宗光 猛
7	委員	健康	渡邊 完児	17	委員	教務課	玉田 健二
8	委員	環境	古濱 裕樹	18	委員	外国語教育推進室	大澤 潤
9	委員	食物	堀内 理恵	19	委員	教育開発支援室	稲積 包則
10	委員	情報	藤本 憲一	20	委員	教育開発支援室	田中 邦子

シリーズ 授業

「みんなで生活習慣を改善するチャレンジとその成果」

食物栄養学科 教授 内藤 義彦
食生活学科

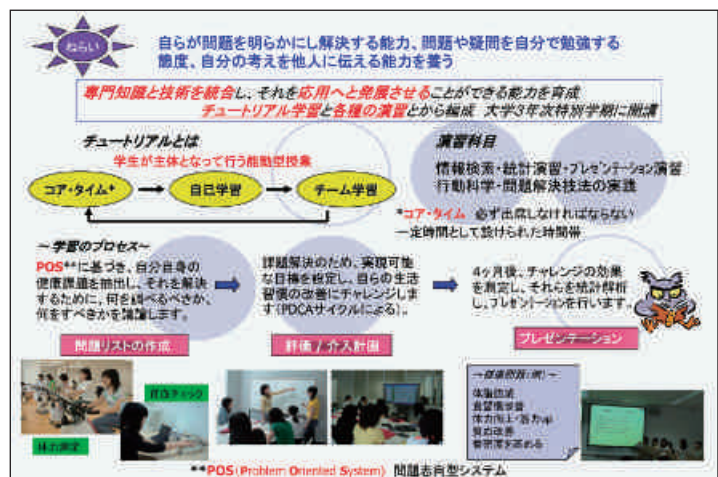
ヘルスプロモーション（以下、HP）演習は食物栄養学科の3年次特別学期（当初は4年次前期）から開講する科目で、学生が入学後3年間に学習した様々な専門的知識及び技術を統合し、それらを応用へと発展させる力を育成するための学習の場として位置付けています。この演習のカリキュラムは、主に、健康度評価、チュートリアル学習およびデータ解析（講義と演習）、プレゼンテーションとから構成され、学生には約4ヶ月間にわたって演習に取り組んでもらいます。

今から10年ほど前、ある地方大学医学部が臨床教育にいち早くチュートリアル学習を導入したところ、学生の学習意欲が高まり高い国家試験合格率を達成できたことに、当時の学科長が大いに刺激を受けました。これは、教員による知識伝達型教育ではなく学生が主体となる能動型教育の有効性を示唆するものであり、この手法がHP演習というかたちで本学科に導入されました（4名の教員と6名のチューター役の助手が担当しますが、主体は学生）。

では、本演習の内容と特長について、もう少し詳しく説明しましょう。

管理栄養士になると、患者に対する生活習慣改善指導を担当することが想定されるわけですが、本演習では自分自身の生活習慣改善にチャレンジしてもらいます。まず、自分の健康度評価として、体格指標（身長、体重）、体組成、

体力、非観血的ヘモグロビン濃度、骨密度、活動量計等の測定及び栄養診断、生活習慣に関する質問等を実施し、修正すべき自己の課題を抽出します。その課題が似ている者で6グループ（演習のクラス編成は4クラスで各クラス50名程度、したがって各グループ8～10名で構成）を作った後、同じグループ内で学生達は共通の目標を設定し、共に語り合い励まし合いながら行動変容にチャレンジします。目標達成のため、行動科学やPDCAサイクル等の手法を用い、色々工夫しながら多くの学生が頑張ります。そして、演習の最後の日には、グループ毎に自分たちの当初の課題と行動変容の成果をプレゼンテーションしてもらいますが、頑張ったグループの発表には自分を制御できたという達成感というか人としての成長を感じさせるものがあります。



これまでの経験から実感しているHP演習の良いところ（強化されること）を、以下、列举します。①自己の行動の課題解決に向けて真摯に取り組む。②論理的判断、計画性、進捗管理の重要性を理解する。③実現可能な目標を設定する。④短・中期的に成果をあげるため集中力を高める。⑤グループで協力し合うことの効果（グループダイナミクス）を実感する。⑥うまくいかない場合に改善策を考える。⑦精度の高い評価の必要性とその方法を理解する。⑧様々な断片的な知識を総動員して考える。⑨信頼できる情報を納得いくまで調べる。⑩やる気を維持する工夫をする。⑪他者（患者等）の行動変容に関して共感的態度がとれる。⑫健康意識と自己効力が高まる。等々。

最後に、本学科では3年生の後半から卒業論文を作成するため学生全員が各研究室に配属され、実験や調査に追われる多忙な日々が始まります。また、卒論研究の合間を縫って国家試験対策に取り組む必要があります。これらのことをうまく進めていくためには、目標実現に向けた生活習慣を身につけることが望ましく、この演習は少なからず貢献し、社会人になっても役立つ体験であると信じています。

編集後記

かつて、英会話スクールのCMで「お茶の間留学」という言葉を初めて耳にした時、少なからず衝撃を覚えた。現在は、「教育改革」の時代と言われ、教育のデジタル化・オープン化にともない、国内外の大学で公開されている講座を、インターネットを通じて24時間いつでもどこでも受講する機会が、誰にでも得られるようになってきた。このような状況は、まさに“お茶の間”あるいは“ストリート”大学とでも呼ぶべきか。もちろん、大学で開講されている講座のすべてが、公開に適しているわけではないことは言うまでもない。

情報社会において、高い思考・判断力や専門的能力を発揮できる自律した人材育成に携わる上で、大学教員自身が常に自己改革を進めていくことの必要性を、最近ひしひしと感じている。

現在、日本版の大規模公開オンライン講座「gacco(ガッコ)」を受講中である。

K.M.





特集：大学院 FD の取り組み



「大学院生意見交換会」の報告

「大学院の振興・充実に関する検討委員会」の主催のもと、平成26年7月5日（土）午後2時から日下記念マルチメディア館 MM-106教室において「大学院生意見交換会」が行われました。また意見交換会終了後は MM カフェでの懇親会にて親睦を深めました。

参加大学院生数

研究科	専攻	参加
文学研究科	日本語日本文学専攻	1名
文学研究科	臨床心理学専攻	4名
臨床教育学研究科	臨床教育学専攻	4名
健康・スポーツ科学研究科	健康・スポーツ科学専攻	3名
生活環境学研究科	生活環境学専攻	1名

研究科	専攻	参加
生活環境学研究科	食物栄養学専攻	8名
薬学研究科	薬学専攻	1名
薬学研究科	薬科学専攻	9名

懇親会参加

文学研究科	教育学専攻	2名
-------	-------	----

参加教職員

糸魚川直祐	(学長)
河合 優年	(大学院の振興・充実に関する検討委員会委員長、心理・社会福祉学科)
渡邊 完児	(大学院の振興・充実に関する検討委員会委員 FD推進委員会委員、健康・スポーツ科学科) (司会)
寺井 朋子	(教育研究所)
伊田美紗子	(健康・スポーツ科学科)
稲積 包則	(FD推進委員会委員、教育開発支援室)
田中 邦子	(FD推進委員会委員、教育開発支援室)

大学院生の想いについて

本学には5つの大学院研究科が設置されており、そのうち修士課程が10と博士（後期）課程が8つあります。それぞれの専攻では、大学院生が日々勉学と研究に熱心に取り組んでいます。ところで、本学は平成23年12月7日、「教育目標実現に向け、自立した学生を社会に送り出すため、主体性・論理性・実行力を培う女子教育に教職員一丸となって取り組みます」とした“武庫川女子大学教育推進宣言”をしました。大学院は元来高度専門教育と研究を行う機関なので、本学では大学・短期大学部のような形でのFD活動は行われてきませんでした。しかしながら、平成24年度に武庫川女子大学大学院・大学・短期大学部の学生を対象に行われました「在学生満足度調査」の結果報告書（自己評価委員会作成）における大学院編をみますと、「授業・教員についての評価」、「進路・就職サポートについての評価」、「将来の進路についての不安」、「武庫川女子大学大学院に対する現在の満足度」では各専攻によって評価の程度が様々でした。そして、勉強や研究以外に将来の進路について不安を抱えている大学院生が意外と多いことが分かりました。このような状況を鑑みて、“大学院の振興・充実に関する検討委員会”では大学院FDを組織（大学院FDワーキンググループ）して、大学院生に対する教育・研究、大学生活全般に対してどう向き合えばよいのかについて検討しようということになりました。



た。最初の取り組みは、平成25年度に専攻別になされましたが、大学院全体でのものではありませんでした。平成26年7月5日（土）、14時よりMM館（106教室）にて行われた「意見交換会」は、はじめて専攻領域を超えての教職員との「意見交換会」となりました。31名の大学院生が参加しました。

最初に糸魚川学長よりご挨拶をいただき、引き続いて河合教授が趣旨説明を行いました。その後グループ討議に移り、グループ毎に議論の結果を発表しました。

【当日のタイムスケジュール】

14:00	～	14:05	糸魚川学長挨拶
14:05	～	14:25	参加者自己紹介 (4グループに分散)
14:30	～	15:00	グループ討議 (役割分担、意見交換)
15:00	～	15:05	グループごとの意見集約
15:05	～	15:30	グループ発表
15:30	～	15:55	全体討論
15:55	～	16:00	終了
16:15	～	18:00	懇親会

今回の「意見交換会」では大学院生のいろいろな想い、考え、意見が聞け、“大学院の振興・充実にに関する検討委員会”メンバーとしては大学院生を支援する内容が具体化され、有意義な時間を過ごすことができました。各グループで出された多くの意見で共通した内容は、①図書館等の資料収集に関することと閉館時間のこと、②他の専攻との交流の場がないこと、③他の研究分野との機器共同利用について、④夜間の授業が取りにくいこと、⑤学会費の補助が少ないこと、⑥大学院の制度が変わった際に学生への通達が遅い、⑦専攻によって経費の規則が異なっている、などでした。



また、糸魚川学長はグループ一つ一つを周り、大学院生の話に耳を傾けられ、時には学長の立場で説明を加えるなど積極的に関わっておられたのが印象的でした。

「意見交換会」が終了した後全員で記念写真を撮り、その後MM館3Fのカフェにて懇親会を開催しました。そこでは大学院生と教職員とが大いに盛り上がり、後半には公江事務局長も参加されて大学院生の話の輪に入られていました。

最後は大学院生との意見交換会を今後も継続することを誓いました。そして、今回は授業等の事情により参加出来なかった文学研究科英語英米文学専攻や生活環境学研究科建築学専攻も含め、さまざまな形で全学的に大学院を盛り上げましょうという言葉で会を閉じました。

